

本郷様と私

インタビュー相手まで

B-6 教育文化学部
张璐 チョウロ 1812200

一、本郷様の紹介

秋田大学と aia のおかげで、私は秋田市将軍堰越にいらっしゃる本郷ファミリーと日本に留学する間にコミュニケーションする約束を締めた。

家族は今、おばあさんとおじいさんしかがいらっしゃらない。お子様の息子さんは東京に仕事を勤め、住んでいる。お娘さんは結婚し、今は秋田市の実家から遠いところに住んでいる。子供さんは全部自分が好きな生活を求め、家を離れ、普段はあまり連絡してくれない。それで、寂しいとき、おじいさんとおばあさんはよく子供のことを思い出すみたい。たぶん、子供の幼年期、みんな一緒に暮らすときが一番懐かしいかもしれない。それに、二階にあるお子様の部屋は今でも子供がいるときそのまま保存している。たぶん両親は子供が帰るのを待っているから。

十一月十日の朝 10 時に、おじいさんとおばあさんは車で迎えに来てくださった。それはみんなの初対面だった。おばあさんもわざわざ着物を着、私を見せてくださった。初めて本物の着物を見、びっくりし、本当に心から感謝する。

お宅をついた後で、まずは庭にある多くの種類で、生き生きとしている花に目を引きつかれた。花の海だと思った。小さい木も家を囲み、暖かいな感じがした。このような家が本当に大好きで、将来もそのような家に住みたい。

玄関に入り、自己紹介をした後、楽しみにしている生け花になった。おばあさんはどうやって創るのを紹介した後、私をさせていただいた。紫の花と枝、陶磁器とはさみ、花を固定する道具が全部前もって揃い、こらからは三角のような形に努力するだけだ。おばあちゃんの指導で、なかなか素敵な生け花が出てきたそうだ。嬉しかった。その過程でおばあちゃんをよくほめてくれて、私に自信をくれて、初めて生け花した不安を無くすのに非常に役立った。

それから、抹茶を作った。残念だけど、私はなかなか泡を立てられなかった。おばあちゃんのおかげで、味がいい抹茶を飲んでもらった。りんごチョコも一緒に食べ、本当においしかった。

さっさと昼ごはんの時間だった。バターつきのかぼちゃ、ご飯のなかに栗、牛肉、野菜が入った。甘い豌豆もあった。スープの中に自産のきのこや豆腐を入れ、トマト、白菜、バターを利用して作ったサラダ、初めて食べ、本当においしかった。少し休んだ後で、着物を着せていただき、初めて本物の着物を着、手順は大変だった、私に着物を着かせるために、おばあさんは汗で背中がぐっしょり濡れてしまった、本当に感動した。おかげさまで、着物を着たあと、まったく変身し、きれいになった。日本の伝統美を体験し、着物を着たとき、自分が古代の日本に戻る感じが出てきて、自分の気質も変わりそうで、ピカピカしている感じで、本当にうれしかった。その時は人生の中に輝いている。

その後、秋田県立博物館へ行き、秋田の歴史を了解し、秋田にいる動物の標本を見、秋田は熊、鹿、狼、狐、栗鼠までいるのにびっくりした。それに、種類がものすごく多い魚で心が動いた。秋田が本当に動物や自然の天国だと思い、大好きになった。

午後は私のため、おばあちゃんとおじいさんはわざわざ中華料理店を注文し、故郷の味を思い出された。おばあちゃんもコップと秋田方言に書いてあるはがきをプレゼン

トとしてくれた。そのコップの上は一期一会という意味の字が書いてあって、私もこれから毎時刻を大切にすることを心に決めた。

その一日は本当に嬉しかった。いろいろな日本の文化も体験し、美食も食べさせてくださって、ありがたい。

十二月の六日に本郷様は私の友達も誘ってくださって、三人一緒にお宅を訪問した。

まずはそばを作った。まずはそば粉と強力粉を適量な量を測った後、混ぜる。富士山の形にし、粉の重さの四分の一の熱湯を火口に注ぐ。ある程度まじったら、両手揉むようにしながら、粉をパン粉状態にし、再度富士山を造る、先と同じ量の冷水を注ぐ、耳たぶ程度の弾力にまで練る。表面の傷がなくなるようにやさしくこねる。それから、新聞紙一面ほどまでに伸ばす。表面にたくさんの打ち粉をし、まな板上に載せ、1-1.5の太さに切っていく。三回ずつ沸かしたお湯に入れ、出来上がり。必ず上が書いてあるようにそばを作る、日本人のまじめさが深刻に感じた。作ったそばはドイツのソーセージと一緒に食べ、つるつるで、冷たいそばを食べるときは最高だった。その後のお菓子と柿、なし、りんごの果物もおいしくて仕方がない。それは私の人生の中に、初めて自分が最初からそばを作った、その過程は本当に楽しかった。きっと一生の貴重な思い出と思う。

おじいさんもおばあさんは中国の食文化に本当に深い興味を持ち、それに、私たちの伝統を尊敬し、お正月のとき、私の友達も誘って、一緒に餃子を作ることにした。その日はまずおばあさんが作ったおせち料理やお雑煮を食べ、それから、おじいさんとおばあさんは皮を作って、友達三人は五種類の餃子を作った、友達は中国の南の出身に対し、私は北の出身で、おじいさんとおばあさんは南北大合戦だと冗談した。作る過程も面白くて、味もおいしくて、家の味が久々感じた、その時涙が出てきたそうだった。本当に充実な一日だった。

二、インタビュー相手

その間、私とその家族はさまざまな話題〔中国および日本の時事〕についてしゃべった。自分が興味を持っているものをもっと深く理解したり、新しい視点を持つようになったりした。秋田人民の友好と優しさを感じたとともに日本人のまじめさも感じた。日本人の精神から日本の文化に至るまで、了解するようになった。秋田がもっと好きになった。そして、おばあちゃんはecoのため、地球環境にいい車を買った。そのような地球人の精神を学ばなければならない。そして、おばあさんとおじいさんは私の親戚みたいで、私が困った時、メール交換したり、いろいろ世話くれたりして、心が温かい。私とおばあちゃんとおじいさんの夢も同じで、世界中に旅行することだ。おばちゃんとおじいさんは退職した後で、夢をだんだん実現した。今も豊富は生活を過ごし、おばあさんは仕事しながら、生け花や和服の学習をする。親孝行もし、毎週必ず親の家に戻って、面倒を見る。おじいさんは毎日インターネットで世界を了解する。前は学校の校長として、天皇が学校を訪問するとき、天皇夫婦に付き添って、見学した。すばらしかった。私は彼らたちを手本として、理想的な生活を作りたい。前おばちゃんとおじいさんの家を訪問した留学生一生懸命に頑張っている姿も了解になった。これからも努力しなければならない、日中両国友好の架け橋とし、頑張りたい、今の日中関係はそんなによくはないが、おばちゃんとおじいさんのそばで、ぜんぜんそんな感じがしない、おばちゃんとおじいさんにも恩返ししたい。

三、インタビューの結果（十二月六日午後一時から四時まで）

問題1： どうして aia に参加しているのか

答え： 退職したし、毎日暇で、子供もそばにいない、二人で生活するのはちょっと寂しい、今は話題が少なくなる。それを参加して、今の若者がどのように努力しているか、わかるようになるかもしれない。それを見て、楽しい。そして、二人の話も多くなる。普通でも二人がよく外食するけれど、一般的には話さない、もう一人と一緒にご飯を食べると、話題が多いし、話も多くなる。にぎやかで、満足感がある。

2 前の留学生と一緒にどんな事をしたのか

答え： 一緒に竿灯祭りを見て、秋田県博物館に行って、インド料理店、中華料理店、イタリア料理店などで、外食した。それに、家で餃子、そばなど、自分で作った。おいしくて、楽しかった。

3 今も前の留学生と連絡しているのか

答え： 今も十年間 aia に参加している。でも前は全部国際教養大学の学生さんだった。初めて秋田大学の学生さんと接触した。前の学生さんが帰国した後、絵葉書を送ってくれた、今もメールで連絡をしている。ある天津の彼女が結婚した時も伝えられた、写真もたくさんもらった。毎年お正月の時、よく前の女の学生に人形を送って、それをもらった後で、学生さんの恋愛運がよくなったからかもしれないよ。

インタビューの過程おじいさんとおばあさんはいつもと同じように笑顔で、優しく答えてくれた。おばあさんとおじいさんは私と違う目的で、彼らたちは日本の文化をもっと多くの外国人に体験させたい、自分が寂しいとき、生活をもっと面白くするためだ。私は日本の文化を体験するため、日本人とコミュニケーションし、自分の会話力と日本に対しての知識を増やすためだ。違う目的だけど、みんなはほかの人と積極接触するために、その活動参加している。

自分の考え：

1 おばあさんとおじいさんは退職した後、子供もそばにいない、何年間も一緒に生活して、二人が相手のすべてのものを了解しているので、継続的な新鮮感が少なくなる。一緒に楽しく生活したいから、新しい要素を生活に注ぎ込んで、いろいろ考えさせて、自分が関心を持っているものもわかるようになる。新しい友達もできる。生活の品質が良くなるかもしれない。

2 人生は一期一会という思想を持って、暮らしすべきだと思う。私はその活動を通じて、日本人に対してのイメージがよくなる。前の偏見も少なくなる。本当の日本人がどんな様子か、日本人の日常生活はどんな様子か、わかるようになった。専門は日本語だから、一国の文化がわからないと、言葉もわからない、そうすると、上手になるのはあり得ないかもしれない。日本人とコミュニケーションして、本場の会話力が身に着けるかもしれない。前は話すのは下手なので、その結果が望ましい。

3 中国にいた時もあったが、日本に着いた後も、有る時は原因がわからないが、突然日本語の勉強に飽きた。今は3年間ぐらい日本語を勉強してきた、それを通じて、日本語に対して、親しい感じを持っている、それがきっかけとして、これからも日本語に専念になるかもしれない。

四、そのコミュニティはどうして私にとって大切なのか、これからどのように生かしたいか

答え： 秋田は私が始めて外国に行って、初めて長い時間家族と離れて、母国と違うところで滞在したところである。日本に来る前に、日中関係が順調に進めないせいで、親友たちは全部私が日本に留学することを心配していた、みんなは「留学をやめてもいい

のか」とよく私に言った、しかし、違う文化を体験したり、自分の日本語の能力がよくなったりするため、私は思い切って、留学することを決めた。しかし、正直に言うと、私もこれからの日本の留學生活をドキドキと心配していた、よく未来はどうであろうか、自分の決定は正しいかと悩んでいた。

そのコミュニティは私が始めてホストファミリーを体験した家族である。前はよく日本人は『うちと外』という意識があると聞いた。興奮しながら、緊張していた。前もって母国のプライドを傷つけないように頑張ろうと心に誓った。しかし、その家族と体験した後で、おじいさんとおばあさんは本当に私を家族の一員として付き合いしてくれた。初対面したとき、彼らは「お父さんとお母さんと呼んでください」と言った。ちょっとびっくりしたけど、彼らと親しくなってきた。その間、本当にいろいろお世話をしてくれた、いろいろ日本の伝統的な美食を食べさせたり、日本の文化を体験させたりしてくれた。私が落ち込んだときも暖かい言葉を言ってくれて、私が日本にいるときの依頼に足りる家族のような存在だ。特に、友達と一緒にその家族の家をうかがう時、お父さんとお母さんは私に対してもっと親しい感じだ。友達もよく私に、「張さんのおかげで、その家族と付き合い、ありがとう」と言った。私もよく母国にいる両親にその家族と接触したことを言っ、両親も「いいね、楽しくて、有意義な留學生活が出来たね、安心した。その関係を大切に、仲良くなしてほしい」と言ってくれた。秋田にいる間、その家族と出会って、さだめのような存在だ。私がものすごく多くの aia の家族の中に、その家族を選択した、その家族も私を納得した。合意を達成した上で、接触し始めた。自分の運命だ。

aia は外国人と日本人の知り合うステージとして、留學生に日本人と接触する機会をいっぱいくれた。心から感謝したい、これからもボランティアとして、その組織の活動に一生懸命に自分の力を尽きたい。本郷さんの家族も帰国した後も、メールや郵便などで、日常生活に連絡したい、私だけではなく、私の家族も本郷様と知り合っ、二つの家族の絆だ、日中民間友好の一つの部分として、頑張りたい。

しかし、その活動に参加することを通じて、注意しなければならないことがある。多少とも言いにくい、言わなければならないと思う。一言でいえば、やはり中国と日本とは違う。国民の考えはその国の利益や国が前から国民に対しての教育と関係ある。中日関係は多かれ少なかれ私と秋田のホストファミリーに影響がある。たとえば、中国人は尖閣諸島は当たり前中国の国土だと思っ、日本人は必ずそれは日本の国土だと思っ、どれも個人の考えでは正しいから、相手に譲りたくない。そのようなことはよく秋田のファミリーとおしゃべりするときにある。これはもしホストファミリーに体験しないと、本当の日本人はどのように中国を考えているか、両国の共通点と違うところはどこにあるのか、わからないかもしれない。その活動を通して、自分の考えが成熟してきた。もっと全面的、多角度で、相手の側から考えようになった。それはもっとも重要な習得だと思っ。

五授業についての感想

1 この授業はいろいろな日本人や留學生と接触することができる。みんなとさまざまな話題について相談することも難しくない。自分が何かわからないところがあった場合、直接同じグループの学生さんや隣の友達に聞くと、すぐ優しく、詳しく説明してくれる。日本の学生さんの学習やサークルなどについていろいろなことがわかってきた。そして、同じグループの学生さんと仲良くなっ、一緒にいろいろな思いでを作った。

2 先生はよく説明してくださった。もし、先生は学生がそこにわからないかもしれないと思ったら、優しく、何回も理解しやすい方法で説明してくださった。それに、先生は多分敏感の話題も説明してくださった。もっとも印象深いのは日本の選挙についてのことだ。先生は日本人の友好を見せた。その前はちょっと心配していたが、先生が説明した後、心が暖かくなった。最も重要なのは先生のシラバスが言った通り、人種や民族を問わず、ただみんなは友達のようにコミュニケーションするべきだということがわかってきた。みんなは全部人として存在している、人種の扱い方で区別してはならない。一つ一つの母国は世界で強くても、弱くても、みんなは同じように尊敬して、付き合っただけでその国に興味がある場合は、その国の友達とおしゃべりして、知りたいことを聞いたほうがいい。コミュニケーションが大事だ、もし、コミュニケーションしないと、自分が理解した世界で夢中して、誤解があるかもしれない。いろいろな人と付き合っただけで、自分の視野も広げたいし、思想も変わる、成熟するかもしれない。

意見：自分のグループのメンバーばかりと接触していて、ほかのクラスメートはあまり知らなかった。もっと多くの日本人と接触し、友達になりたい。しかし、日本の学生さんたちはあまり積極コミュニケーションしてくれない。冷たい感じがある。ほかの留学生に聞いても、みんなは全部同じ考えがあるみたい。しかし、ちょっと年上の日本人に聞いた後で、彼らは日本人が「シャイ」と言ってくれた。この答えにびっくりしてしまった。やっぱり日本と中国の文化や人々の性格は違うということは分かってきた。中国には人々が初対面した後で、そのあと会うと、みんなは互いに挨拶する習慣がある。しかし、日本の学生さんは何回付き合った後も、積極挨拶してくれなかった。たぶん自分も積極してないからかもしれない。これから積極的に、熱情で、心から友達を作ること頑張りたい。コミュニケーションが大事だから。もっと深く日本人と接触し、この国や文化に慣れたい。そのために一生懸命に頑張りたい。